

【研究名】：精神疾患患者における高プロラクチン血症発症に関する要因解析

【研究目的】

抗精神病薬とは主に統合失調症や双極性障害(躁うつ病)といった病気で使用されている薬です。抗精神病薬を服用することによって起こりうる副作用の一つに高プロラクチン血症があります。プロラクチンとは脳の一部から産生されるホルモンです。血液中のプロラクチンが上昇し基準値を超えることを高プロラクチン血症といいます。高プロラクチン血症によって月経異常や乳汁分泌、性機能障害などのリスクが報告されていますが、医療現場においてはこれらの症状が非常に重くなるまで表面化しにくく問題となっています。

そこで、当院におけるプロラクチン値の測定データを用いて、抗精神病薬服用に対するプロラクチン値への影響や高プロラクチン血症の要因を解析し、プロラクチン値上昇を考慮した薬剤の適正使用方法を検討します。

【研究意義】

抗精神病薬を服用されている患者さんに対する、副作用発現の早期発見および薬剤適正使用への貢献が期待できます。

【調査の対象となる患者さん】

2014年4月ー2015年11月の間にプロラクチン値を測定した患者さんのうち、抗精神病薬を1ヶ月以上に渡って服用されている方。

【方法】

調査の対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を調べます。

性別、年齢、精神疾患名、HbA1c、副作用歴、非定型抗精神病薬の服用歴、クロルプロマジン換算量(1日の服用量)、服用回数、併用薬

【研究実施期間】

2016年3月1日～2016年12月31日

【患者さんの個人情報の管理について】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの個人情報が外部に漏れることはありません。

【研究実施体制】

研究機関： 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者： 教授 荒木 博陽

研究分担者：

准教授 田中 亮裕

副部長 守口 淑秀

副部長 田中 守

徳島大学病院

特任助教 武智 研志

松山大学 薬学部

松岡 一郎

中村 真

小林 三和子

高取 真吾

吉岡 由梨佳

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。

また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いします。

研究責任者： 准教授 田中 亮裕

電話番号： 089-960-5731

e-mail: akiki@m.ehime-u.ac.jp

【本研究の結果】

クエチアピンはドパミン D2 受容体に対する親和性が低いことや、半減期が比較的短い点から、単剤におけるプロラクチン値の上昇を引き起こしにくいと考えられた。しかし、クエチアピンは他の向精神病薬との併用でその長所を失うことが明らかとなった。一方、アリピプラゾールは下垂体のドパミン受容体にも作動薬として作用しているため、多剤併用時においてもプロラクチン値上昇の危険性が少ないと考えられた。本研究の成果は医療薬学フォーラム 2016 にて発表を行った。